

平成22年7月27日

各 位

会社名 s a n t e c株式会社  
代表者名 代表取締役社長 鄭 台鎬  
(コード： 大証ヘラクレス S 6777)  
問合せ先 業務部管理グループ長 水島 大介  
(TEL. 0568-79-3535)

## N I C T 「先進技術型研究開発助成金」に係る助成対象事業への 採択決定に関するお知らせ

このたび、独立行政法人情報通信研究機構（略称「N I C T」）の実施する、平成22年度「先進技術型研究開発助成金助成対象事業」について、当社が提案・応募しておりました「先進的LCOSプロセッサを用いた次世代ROADM装置用チューナブルフィルタ・アレイの研究開発」が採択されることが決定いたしましたので、お知らせいたします。

同助成事業は、通信・放送分野における新規事業の創出を図ることを目的として、先進的な技術の研究開発を行う民間のベンチャー企業等に対して、その研究開発に必要な資金の一部を助成するものです。

### 記

#### 1. 採択された助成対象事業の概要

当社が有するLCOS（注1）プロセッサ技術を応用することにより、低コストでありながら、高品質で優れた安定性を保持する、次世代ROADM（注2）装置を実現することを目標としております。

今日の光ネットワーク網には波長多重通信技術が利用されていますが、高速大容量通信時代を迎え、光ネットワーク網の交差点に相当する部分において、光信号処理機能を備えたROADM装置の導入が進められています。

クラウド・コンピューティングや動画ストリーミングの普及などを背景に、高速大容量通信を支えるため、より高速、かつ、安定した交差点処理が求められていますが、現在市場に存在するROADM装置は、その要求に応えておりません。

本研究開発では、テレコム品質（注3）での実用に堪える次世代ROADMを実現するため、「チューナブルフィルタ・アレイ」（波長可変機能付き光フィルタ装置）の開発に取り組み、商品化を目指します。

本分野の、現在における主流は、MEMS（微小電子装置）を用いる方式ですが、可動部品であるMEMSは振動衝撃耐性が弱く、十分な品質が出せておりません。当社が保有するLCOS技術をチューナブルフィルタ・アレイに適用すれば、可動部品を排することが可能になり、求められている高い品質と、安定性を実現できると期待されています。

また、本開発の成果は、ROADM装置だけではなく、他の先進的光伝送機器にも幅広く応用可能であり、たとえば、次世代の波長選択クロスコネクトスイッチへの応用も期待されています。

注1 LCOS

Liquid Crystal On Silicon。シリコン基板上に反射型液晶を形成する技術。

注2 ROADM

Reconfigurable Optical Add Drop Multiplexer。リング状の光通信ネットワークで用いられる、光信号の経路判定の技術。波長多重光信号から任意の波長の光信号を取り出し、合流させることを可能とします。光信号を電気信号に変換しないため、超高速の伝送速度を保ったまま、柔軟な経路管理を実現します。

注3 テレコム品質

インターネット等のベストエフォート型通信とは異なり、固定電話網や携帯電話網では高い品質・安全性・安定性が要求されます。これらのサービスの要求に堪える品質を指します。

## 2. 助成の内容

助成の期間	平成22年6月18日から平成25年3月31日まで
平成22年度助成内容	助成対象経費（62,116,000円）の2分の1
平成22年度助成額	31,058,000円

## 3. 今後の見通しと当社業績に与える影響

本件に係る助成金の額は計画開始時点の見積額であり、確定したものではありません。また、本件開発の成果が当社グループの業績に与える影響は調査中でございます。これらについては明らかとなり次第、発表させていただきます。

## 4. ご参考

独立行政法人 情報通信研究機構による発表内容は、以下をご覧ください。

平成22年度「先進技術型研究開発助成金」の交付決定について

<http://www2.nict.go.jp/pub/whatsnew/press/h22/100622/100622-1.html>

以上